

茂原市まちづくり条例についての基本的な考え方・前文（H25.9.25）

項目	H25.9.11 運営委員会	H25.9.3 全体会
前文	<p>私たちの茂原市は、千葉県ほぼ中央部に位置し、一宮川などの水利と温暖な気候に恵まれ、緑豊かな景観と農村文化を育んできました。</p> <p>近年は、農業に加えて、豊富な地下資源である天然ガスを利用した「煙の出ない工業都市」として、九十九里地域最大の商業、工業、教育などの中心として発展してきました。</p> <p>昭和27年、1町6村が合併して茂原市が誕生し、昭和47年には本納町と合併して、現在の茂原市の姿になりました。</p> <p>私たちは、この歴史ある文化と自然を大切に保存しながら、人々のつながりを大切にし、自立した地域社会を築き、「開かれた、誰もが自由にまちづくりに参加できるまち茂原」を目指しています。</p> <p>戦後からいわゆる「高度経済成長期」までの時代は、日本全体が所得倍増、経済成長を目指しており、茂原市も例外ではなく、都市インフラの整備で<u>土地購入など積極的に投資してきました。</u></p> <p><u>バブル経済崩壊後、世の中の状況が変わったにもかかわらず、その変化に対応できなかったため、平成13年度の茂原市の借金は958億円(平成13年度一般会計予算は266億円)と大きく膨らんでしまいまし</u></p>	<p>私たちの茂原市は、千葉県ほぼ中央部に位置し、まちの中央を流れる一宮川をはじめとする、緑豊かで温暖な自然あふれるまちです。</p> <p>近年は、豊富な地下資源である天然ガスを利用した「煙の出ない工業都市」として、九十九里地域最大の商業、工業、教育などの中心として発展してきました。</p> <p>昭和27年、1町6村が合併して茂原市が誕生し、昭和47年には本納町と合併して、現在の茂原市の姿になりました。</p> <p>私たちは、この歴史ある文化と自然を大切に保存しながら、人々のつながりを大切にし、自立した地域社会を築き、「開かれた、誰もが自由にまちづくりに参加できるまち茂原」を目指しています。</p> <p>戦後からいわゆる「高度経済成長期」までの時代は、日本全体が所得倍増、経済成長を目指しており、茂原市も例外ではなく、都市インフラの整備などに<u>努力してきました。市民生活も豊かで便利になりましたが、その結果として、後年度の負担が大きく残り、厳しい財政状況を招いたのも事実です。</u></p> <p><u>今後は、少子高齢化が進み、人口が減少する中で、労働人口が減少することによって税収も減り、ますます財政が厳しくなります。</u></p>

茂原市まちづくり条例についての基本的な考え方・前文（H25.9.25）

項目	H25.9.11 運営委員会	H25.9.3 全体会
	<p><u>た。</u></p> <p><u>そして、特に、土地開発公社などの債務負担が約170億円と巨額であり、行財政運営の硬直化と議会のチェック機能不全が最大の原因と思われませんが、現在もまちの財政負担となって行政サービスの低下を招いています。</u></p> <p><u>市民についても、行政から茂原市の財政悪化について分かりやすく説明が行われなかったこともあり、危機的状況について気が付かなかったため、まちのことにあまり関心を持ちませんでした。</u></p> <p><u>小中学校の耐震化は遅れている、子ども医療費助成が県内最低レベル、可燃ゴミ袋の値段が県内最高水準など、様々な面で市民生活を圧迫し、しばらくして市民がその原因に気が付いたときには、市の財政は破綻寸前状態になっていました。</u></p> <p><u>現在、市では「財政健全化計画」を推進しています。5年・10年後に住んでよかったと思えるように、市民・行政・議会が協働でまちづくりに参加することが最も重要になってきています。</u></p> <p><u>当然のことながら、茂原市は色々な価値観を持った人々が暮らしています。複雑な社会の中で、地方分権、少子高齢化、人口減少など、変わりゆく時代を<u>生きて</u></u></p>	<p><u>多様な価値観を持った人々が混在する複雑な社会の中で、地方分権、少子高齢化、人口減少など、変わりゆく時代を<u>暮らしやすくするためには、市民一人ひ</u></u></p>

茂原市まちづくり条例についての基本的な考え方・前文（H25.9.25）

項目	H25.9.11 運営委員会	H25.9.3 全体会
	<p><u>いくためには、市民一人ひとりが自ら考え、意見表明し、参加し、決定する「市民自治」がまちづくりの原点であり、必要です。</u></p> <p>私たちは、茂原市市民憲章の基本理念および市民自治の精神のもと、自分たちのまちの課題を、市民・議会・市や団体・企業等のまちづくりの担い手が、<u>情報を共有し、自由に参加し、まちづくりの課題について話し合い、共通の目的を持って協働しながら、その課題に対する新しい取り組みや工夫などについて議論し、実行することが必要です。</u></p> <p>このためには、それぞれが持っている情報を共有するための仕組みや<u>参加の方法、協働の考え方</u>などを、仕組みとして条例で定めておく必要があります。</p> <p>この条例により、市民、市および議会との関係が限りなく水平となり、信頼と緊張感のある市民参加のまちづくりが可能になります。</p>	<p>とりが自ら考え、意見表明し、参加し、決定する「市民自治」がまちづくりの原点であり、必要です。</p> <p>私たちは、茂原市市民憲章の基本理念および市民自治の精神のもと、自分たちのまちの課題を、市民・議会・市や団体・企業等のまちづくりの担い手<u>たちが、自由に参加し、情報を共有し、まちづくりの課題について話し合い、共通の目的を持って協働しながら、その課題に対する新しい取り組みや工夫などについて議論する機会が必要だと考えます。</u></p> <p>このためには、それぞれが持っている情報を共有するための仕組みや<u>協働の考え方、参加の方法</u>などを、仕組みとして条例で定めておく必要があります。</p> <p>この条例により、市民、市および議会との関係が限りなく水平となり、信頼と緊張感のある市民参加のまちづくりが可能になります。</p> <p><u>家族でよく使われる言葉で「ただいま！」という言葉があります。何気なく使っている言葉ですが、心に響き、住んでいる人の温かさを感じることが出来ます。そんな温かく豊かなまちを創り上げていくために、「茂原市まちづくり条例」を制定し、まちづくりの基本といたします。</u></p>

茂原市まちづくり条例についての基本的な考え方・前文（H25.9.25）

項目	H25.9.11 運営委員会	H25.9.3 全体会
	<p>そして、この条例が「茂原市まちづくり条例」であり、茂原市の市民自治によるまちづくりの基本であることを、ここに宣言いたします。</p>	<p>そして、この条例が「茂原市まちづくり条例」であり、茂原市のまちづくりの基本であることを、ここに宣言いたします。</p>
<p>提言の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茂原市のこれまでの経緯と現在置かれている状況を踏まえ、今後どのようなまちづくりをしていかなうてはならないか、なぜこの条例を制定しなくてはならないか、その基本的な理念とは何かを織り交ぜた前文を置く必要があります。</li> <li>・これまでは、行政の公平性、全体の幸福追求から、ハードウェア中心のインフラ整備等のまちづくりが行われてきました。</li> <li>・その結果として、土地開発公社の債務負担など、大きな後年度負担が残ったのも事実です。</li> <li>・今後は、人口が減少し、少子高齢化が進行し、ますます財政が厳しくなります。</li> <li>・行政も人員が減少し、アイディアも乏しく、ますます市民参加が必要となります。市民一人ひとりの発想を活かすため、意見表明、参加・決定の場が必要です。</li> <li>・<u>市民、市および議会がそれぞれの役割と責務のもと、まちづくりに取り組むことを「水平で信頼と緊張感ある」と表現しました。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茂原市のこれまでの経緯と現在置かれている状況を踏まえ、今後どのようなまちづくりをしていかなうてはならないか、なぜこの条例を制定しなくてはならないか、その基本的な理念とは何かを織り交ぜた前文を置く必要があります。</li> <li>・これまでは、行政の公平性、全体の幸福追求から、ハードウェア中心のインフラ整備等のまちづくりが行われてきました。</li> <li>・その結果として、土地開発公社の債務負担など、大きな後年度負担が残ったのも事実です。</li> <li>・今後は、人口が減少し、少子高齢化が進行し、ますます財政が厳しくなります。</li> <li>・行政も人員が減少し、アイディアも乏しく、ますます市民参加が必要となります。市民一人ひとりの発想を活かすため、意見表明、参加・決定の場が必要です。</li> </ul>